

ご近所のお医者さん

654

大阪公立大学附属病院
神経精神科部長

井上幸紀さん

—大阪市阿倍野区

社会の変化と心の健康

「情報化社会の到来」といわれて久しいです。私が学生生活を過ごした1980年代は、友人との連絡には家の黒電話や赤、緑の公衆電話を使っていました。その後、ファクス、ポケットベル、PHS、ガラケーと進化した、今は多くの人がスマートフォンを持っています。カメラやお財布機能をはじめ、簡単なパソコン作業もできます。

しかし残念ながら「便利で幸せになった」とは言い切れません。仕事のメ

自分に寄り添う時間を

え、今やスマホのない生活は想像できません。

新型コロナウイルスに在宅勤務が導入され

ました。通勤による感染リスクはあり

ませんが、人間関係が希薄で悩みを抱

え込んだり、家で一日中仕事をして体

調を崩したりする人も出ました。「出

社」には「人と交わる」「公私の区切

りをつける」という意味があったのだ

と改めて思います。

今年5月にコロナ対策のさまざまな制限が解け、外でマスクを着けている人が減ってきました。ただ、国が解除したからもう大丈夫と思う人もいれば、高齢者と住んでいるなど、まだまだコロナ感染対策に慎重な人もいます。同じ社会に異なる価値観が存在し、お互いに苦々しく思っている場合もあるようです。

日常生活ではあまり感じませんが、社会の変化は急激で大きく、今後の予測も困難で

す。その変化はストレスとなり、

測も困難で

す。その変化はスト

レスとなり、

測も困難で

す。その変化はスト

レスとなり、

測も困難で

す。その変化はスト

レスとなり、

測も困難で

す。その変化はスト

レスとなり、

測も困難で

会委員